

技能五輪全国大会で優勝果たす

南関町出身 植田創一朗さん

23歳以下の技能者の技能レベル日本一を競う「第60回技能五輪全国大会」が11月に千葉県で行われ、町出身の植田創一朗さん(トヨタ自動車)が「試作モデル製作」部門で優勝に輝きました。

この大会は、美容や料理など42の種目に分かれてものづくりで優れた技能を競うものです。

植田さんは「優勝を果たせてすごうれしい。支えてくれた人に感謝を伝えたい」と喜びを語り「初の全国大会で緊張したが、やってきたことを思い出し集中することで思い通りの動きができた」と大会を振り返りました。今後については「2023年大会は優勝すると国際大会に出場できるので、もう一度初心に戻り、技能レベルを上げて次の大会に臨みます」と抱負を語りました。



▲技能五輪全国大会で優勝した植田さん



▶左から、佐藤町長、大里選手、谷口教育長

子どもたちの未来のために

大里選手がバーディー数に応じて寄付

町出身で女子プロゴルファーの大里桃子選手が12月27日に役場を訪問し、今シーズンのツアーで獲得したバーディー数343回×千円分の寄付金343千円と、グッズ売上などのチャリティ金30万円を町に寄付しました。

大里選手が子どものころから応援をしてもらった町へ恩返しをしたいという思いで3年前から町に寄付を続けています。

大里選手は「南関町の子どもたちの未来のためになればうれしい。来年は一戦一戦を大切に、まず1勝を目指します」と述べました。

寄付金は、町全体のスポーツ振興や中学校のスポーツ活動などに活用される予定です。



▶左から佐藤町長、高木さん、谷口教育長

南関町初 箱根ランナー第1号

山梨学院大学 高木 翔瑛さん

1月5日、新春の箱根駅伝に出場し山梨学院大学の9区を快走した町出身の高木翔瑛さん(3年生)が町長を表敬訪問しました。

南関中学卒業後に熊本工業高校で本格的に陸上を始め、箱根駅伝出場を目指して山梨学院大学に進学。周囲のレベルの高さを痛感するも、目標に向けて毎日練習を重ね、今年念願の箱根駅伝初出走を果たしました。

高木さんは「走っているとき何度も苦しい場面があったが、応援を力に無事タスキを繋げることができてよかった」と振り返り「大学4年は集大成の1年。箱根でタスキを繋ぐだけでなく、区間一桁を目標にがんばりたい」と意気込みました。

スポーツで伝え方の重要性を学ぶ

中学校 ガイドランナー体験講習会

12月22日、南関中学校(永杉尚久校長)で「ガイドランナー体験講習会」が開かれ、NPO法人ひとづくりJAPANネットワークの柴尾源太さんが中学2年生へ授業を行いました。

障害者スポーツ推進プロジェクトの一環として、障害者スポーツへの理解促進や誰もがスポーツに親しむ環境をつくることを目的に実施しました。

初めに講義やグループワークを通して伝え方などについて学んだ後、体育館で実際にガイドランナーを体験しました。2人1組になって1人がアイマスクを装着し、声を掛けながらリズムよく走りました。

舛永葵さん(関町)は「目が見えない方の立場に立って考える、いいきっかけになりました」と話しました。柴尾さんは「聞く力や伝える力、コミュニケーションの重要性を理解し、これからの学校生活に生かしてほしい」と生徒に伝えました。



◀ヘアと歩幅を合わせてリズムよく歩く生徒

楽しく!体を動かし体力向上を

二小で体育スペシャル授業

12月5日、南関第二小学校(隈部孝二校長)の3~6年生を対象に、子どもたちの体力向上推進を図るための体育スペシャル授業が開かれ、元新体操のオリンピック日本代表選手で南関町子ども体力向上推進コンソーシアム構成員の秋山エリカさんが授業を行いました。

児童は、秋山さんのかけ声に合わせて体育館を端から端まで使い楽しく体を動かしたほか、柔軟体操のコツなども教わりました。

秋山さんは、リボンやボールを使った新体操の技を披露し「技を習得するため10,000回練習した。あきらめるのではなく、もう一回やってみようの気持ちが大切」と話しました。

4年生の熊谷陽菜さんは「リボンの動きや柔軟体操が楽しかった。いつかリボンをやってみたい」と笑顔で話しました。



▶秋山さんの動きに合わせて体を動かす児童



▶作ったわら草履と記念撮影

世界に一つだけのわら草履づくり

四小 わら草履づくり体験

12月9日、南関第四小学校(浜崎泰史校長)の3年生15人がわら草履づくりに挑戦しました。

四小では、人権学習の一環として地域の産業や伝統文化を学ぶことを目的に同体験を毎年実施しています。

児童は、講師の米澤正志さんの説明をしっかりと聞いて作業に取り掛かるも、初めて使う道具や慣れない編み込み作業などに苦戦。地域の人の力を借りながら試行錯誤を繰り返し、立派なわら草履を作り上げました。

小宮成瑠さん(上坂下)は「わらを編み込む作業が難しかったけどどうも作れて楽しかった。完成した草履をいろいろなところで履きたい」と笑顔で話しました。



▲「難関突破への架け箸・難関突破達成米」贈呈式の様子

夢に向かって難関突破

町内事業者が中学生へ難関突破グッズ贈る

12月14日、町内の事業者3社とボランティア団体から南関中学校(永杉尚久校長)の3年生へ難関突破グッズが贈られました。

今年で8回目となった本贈呈式は、これから先待ち受ける様々な困難を突破して夢を実現してほしいという思いから実施されています。

(有)花見商店から「難関突破達成米」、(株)ヤマチクから「難関突破への架け箸」、(有)大木商店から「難関突破芋どら焼き」、南関宿場町伝楽人から「なんかんとは箸置」が贈られました。

代表して畠中悠月さん(関町)は「行きたい道へ進めるよう精いっぱい努力します」と話しました。

音楽と花火が町を照らす

松風音楽村 音楽フェスティバル2022

12月18日、南の関うから館で「松風音楽村音楽フェスティバル2022」が開催され、熱のこもった演奏で来場した人を楽しませました。

音楽を通して町に元気を届けようと企画された本イベントには、町内などで活動するバンドや吹奏楽団など8組が出演。ゲストにはくまモンとトッパ丸も登場し、元気なダンスで会場を盛り上げました。

外では昭和の古き良きオールドカーや色とりどりのキッチンカーが集合し、食を堪能したりカメラを向けるなどして楽しみました。

終演後には関村地区で花火が打ち上げられ、観客は特大の花見に見入っていました。



▶会場いっぱい壮大な音色を響かせる